

水害から一年が経過して

当時の状況や、これからの思いについてお聞きしました

■被害を目の当たりにする

自宅で寝ていたところ、妻から「避難するよ」と声をかけられて、午後11時頃に神林中学校に避難しました。避難していると、午前1時頃に小岩内区長から連絡があり、「ハウスの後ろがひどいことになっている」と連絡が入り「終わったな」と思いました。

翌日、トマトを栽培しているハウスに行く、ハウスの中に80cmくらい浸水して、栽培用の発泡スチロールが浮き、ハウスの周りには多くの流木や土砂が流れていて、「相当な時間が掛かる」と思いました。



▲被害を受けたハウスの様子

■仲間たちの支援

被害を目の当たりにして、気持ち折れそうになりましたが、SNSなどを活用して協力してくれる仲間、ボランティアを求めるとの情報を発信しました。50代で「助けてほしい」ということに恥じらひはありませんが、自分1人でやることには限界があるし、多くの人に協力を頼まなければと思いました。

情報発信をすると、高校時代のラグビー部の仲間や、県内・外から多くのボランティアの方が助けに来てくれました。30度越えの猛暑の中、ビニールハウスで作業をしてもいい、慣れない作業で疲れているのに、帰るときに「頑張ってくださいね」と声を掛けて帰ってくれる方が多数いました。その方たちがいなかったら、今も続けないと思います。



高野 貞昭さん (53歳/小岩内) 生まれ育った小岩内集落でMIRAIこいわうちの一員としてトマトやコメを栽培。

■水害を経験して

普通にある日常を大切にしていきたいと思うようになりました。細かいことを面倒だと思ひ、後でやろうと思ひたことでも、今やろうと。今を大事にしようと思ひようになりました。今年、普通にトマトとコメの収穫をしたいと思いますね。

■集落とのつながり

水害前はトマトの収穫時期になると集落のお母さん方に収穫作業を手伝ってもらいました。今年も収穫時期がきたら手伝いを頼むよと連絡をしたのですが、これからは小岩内の皆さんが集える場所になってくれたらいいなと思っています。

■不安の中で夜を過ごす

午前2時頃、家族に起こされて玄関を見ると、浸水して見る見るうちに水かさが増してきていたので、2階に上がり窓を開け外を見ると、道路が水に浸り、渦を巻きながら濁流が流れていました。

停電のため情報を得ることができず、荒川の堤防が決壊したのではないかと不安の中、家族と自宅2階で一晩を過ごしたのを覚えています。翌朝、救助要請を行い、その日の午後消防本部のゴムボートでようやく避難することができました。

■地域の支えあいを感ずる

自宅1階は、床上70cmの浸水があり、水が引いた後でも滅茶苦茶な状態だったため、しばらくは自宅2階での生活を強いられました。停電や断水のため普段の生活がままならなかったですが、家族が避難所でお世話になったこ



▲右上の建物が坂上さんの自宅 (近隣住宅から撮影)

と、区長が地域の要望を市に取り次いでくれたこと、消防団による物資運搬、ボランティアの方たちや義援金など、多くの方の温かな心遣いに触れることができました。

不幸な出来事ではありませんでしたが、支え合いの中で生かされていることへの感謝を強く感じています。

■これからも絆を大切にしたい

地域の復興は、まだまだ先のことはありますが、これまで以上に、人と人との絆を大切にしながら、元の生活を1日でも早く取り戻せるよう願っています。

■被害状況・支援について

昨年8月の大雨は、市内の広範囲に避難指示が発令され、避難所への避難者は千人を超えました。

住宅などの被害も全壊が6棟、大規模半壊が14棟、中規模半壊が105棟、半壊が457棟など荒川・神林地域を中心に広範囲にわたり、建物被害が発生しました。

水害後、企業や個人の方から多くの救援物資が届けられた他、ふるさと納税による寄附が1611万円、義援金が2866万円、見舞金が1040万円と全国各地から多くの支援をいただきました。

建設業協会や管工事業協同組合などからは協定に基づく支援を受け、緊急工事や仮設住宅の設置などの対応をしていただきました。また、4千人を超えるボランティアや市消防団からも、建物に流入した泥出しや建物周りの片付けなどにご協力をいただきました。

今年も、全国各地で大雨による被害が報告されています。常に対応できる体制を整え、緊急時に備える必要があります。



■安全で魅力ある地域へ

市では、昨年11月に将来に向けた復興への展望と基本的方針の統一を目指して「復旧・復興タイムライン」を策定しました。

現在は「復興期」に当たり、生活環境や産業・インフラなどのさまざまな基盤の本復旧を目指すと共に、地域の活力を高め、安全で魅力ある地域を目指します。

6/1 小岩内集落が土砂災害防止功労者を受賞 令和5年度 第41回土砂災害防止「全国の集い」(富山県)



▲表彰式に出席した前区長の松本佐一さん

昨年の豪雨災害時の適切な判断や迅速な避難行動で人的被害を防いだことが認められ、表彰されました。

表彰式に出席した前区長の松本さんは、「大きな被害を受けたが、区と消防団が連携して迅速に避難誘導を行い、犠牲者を1人も出さずに済みました。昭和42年の羽越水害の経験から当時の状況を踏まえ、『声を掛け合って避難・避難ルートの再確認・全員避難済みかどうかの確認』を訓練してきた成果だと思っています。今後も、若い世代に災害の経験を伝え、危機管理の意識を高めていきたいです。」と話していました。